

明かり窓と顔見世提灯

金丸座には、劇場の西側と東側にあるバルコニー席の上と後方に窓や雨戸があり、開閉することで場内の明るさを調整することができます。紙製の雨戸と木製の雨戸があり、その組み合わせによって様々な照明が表現されます。紙製の照明を使用すると、自然の太陽光を喚起させることができます。演出によっては木製の雨戸を全て同時に締めることで、劇場を暗闇に包み込むことも可能です。

顔見世提灯とは役者の家紋が描かれた提灯のことで、観客席の上に吊るされています。劇中は提灯を見ることで、どの役者が出演していて、その役者がどの格付けにいるのかを知ることができます。観客は劇場に入った瞬間、提灯に圧倒されます。というのも、提灯はかなり大きく、印象的な見た目だからです（高さ 1.2m×幅 45cm）。